

「北海道がん医療を担う医療人養成プログラム」  
～地域がん医療の充実と最先端がん研究の推進～

平成27年度  
がんプロフェッショナル  
養成基盤推進プラン

事業報告書



北海道医療大学  
Health Sciences University of Hokkaido

---

## ごあいさつ

北海道医療大学大学院 看護福祉学研究科長 平 典子 .....	4
北海道医療大学大学院 薬学研究科長 和田 啓爾 .....	5

---

## 北海道医療大学のがんプロフェッショナル養成基盤推進事業

<b>01</b> 「北海道がん医療を担う医療人養成プログラム ー地域がん医療の充実と最先端がん研究の推進ー」について .....	8
<b>02</b> 北海道医療大学の教育コース .....	10

---

## 平成27年度北海道医療大学 がん看護コース 事業報告

<b>01</b> 緩和ケアリソースナース養成プログラム .....	12
<b>02</b> 特別セミナー .....	22

---

## 平成27年北海道医療大学 地域がん医療薬剤師コース(インテンシブコース) 事業報告

地域がん医療薬剤師養成基礎講座 .....	24
-----------------------	----

---

## 平成27年度 4大学連携プログラム 事業報告

<b>01</b> 地域がん医療人コース(インテンシブプログラム) .....	32
<b>02</b> 市民公開講座 .....	33

平成27年度 北海道医療大学担当者 .....	34
-------------------------	----

## 1年の事業を終えて



北海道医療大学大学院 看護福祉学研究科長

平 典子

2015年度、看護福祉学研究科では「緩和ケアリソースナース養成プログラム」に取り組み、順調に事業を推進することができました。

主な事業として、北海道CNSの会との協働により講演会および事例検討会を開催し、多くの道内のCNS、CNSを目指している方、そして大学院生の参加を得て成果を上げることができたと感じています。セクシャリティに関連する看護支援では、圧倒的に知識不足であること、また、そのことも相まって無意識のうちどこか特別視している自分たちが存在することを強く認識した次第です。看護カウンセリングに関連するコミュニケーションの在り方に関しては、これもまた、理解しているつもりでも、それが必ずしも実践に結びついていないことがあることを学ぶ機会になったように思います。コミュニケーションとは、看護実践において基本中の基本でありながら、誰もが日常的に行っているがゆえに自身のコミュニケーション能力について「意図的に」振り返ることが少ない、そのようなテーマのように感じます。しかし、専門職として介入の成果を出すための重要な要素であり、また、介入全般に関わるものであることを意識し、定期的に振り返る機会をもつことが重要であると実感しました。

また、今年度は、本事業に準ずる2つの活動を実施しております。一つは、道内のがん診療拠点病院看護部との連携により、家族看護に関する学習会を3回シリーズで実施したことです。もう一つは、道内がん診療拠点病院およびがん診療地域連携病院の医師、理学療法士、栄養士等との協

働による家族サポートグループを実施したことです。これらはいずれも、本研究科を修了したCNSとの協働により実現した活動であり、これまでの事業成果がこのような波及効果をもたらしているものと考えます。教育の成果が可視化するには、このように時間を要するわけですから、がんプロフェッショナル養成事業として1期から2期、そして3期へとつないでいくことは大変重要なことだと考えております。

このように、今年度の事業によりいくつかの成果を上げることができましたが、中でも継続の重要性を感じているのは事例検討会の実施です。看護師が遭遇する現象は、「風が吹けば桶屋がもうかる」的に、一つの原因からいくつかの健康問題が生じ、それがまた原因となり他の健康問題へと派生するというように、どこをどのように切り取り介入していくとよいか一見して見えにくい状況にあります。臨床現場では、短時間のチームカンファレンスにおいて、介入の方向性を見いださなければならず、その中心的役割をリソースナースが担うことも多いと思います。病状や治療経過、患者の信条や生活環境、社会的資源とともに、時間的要素も加味し、問題の本質を読み取る力を培うためには、事例検討を通して地道に学習することがとても重要だと考えます。そこには、事例検討会をスーパーバイズできる人材も必要となります。次年度は、このあたりも視野に活動したいと考えております。

北海道CNSの会の皆様をはじめとし、皆様には引き続き本プログラムにご支援くださいますようお願い申し上げます。

## 地域がん医療薬剤師の養成とネットワーク作りを目指して



北海道医療大学大学院 薬学研究科長  
和田 啓爾

北海道医療大学大学院薬学研究科では、平成24年度からスタートした文部科学省「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」における「北海道がん医療を担う医療人養成プログラム」-地域のニーズにあったがん医療と先端研究-に参画しており、インテンシブコースとして「地域がん医療薬剤師コース」を設け、今年度はその4年目となりました。

このコースは、北海道における医療現場の薬剤師が「がん医療」に特化した基礎知識や最先端の知識を学び、また他施設間との情報交換・共有によるレベルアップで、地域におけるがん医療の推進に他職種と連携共同して実践することのできるリーダーの薬剤師を養成することを目的としております。

前年度同様、今年度も「地域がん医療薬剤師養成基礎講座」においてシンポジウムを2回、討論会を1回開催しました。シンポジウムのメインテーマは「チーム医療の実際」とし、平成28年2月2日開催の第1回はがん化学療法について、同年2月16日開催の第2回は緩和医療について、それぞれがん拠点病院等の医療施設の医師、看護師、薬剤師のそれぞれの立場からチーム医療の取組について実例を紹介していただき、活発な総合討論を行いました。参加者もそれぞれ20名を超え盛況でした。また、同年2月27日開催の「第5回がん薬物療法研究討論会」においては、医療従事者が多数参加する全国規模の医療薬学会等ががんに関する研究発表した施設から9演題の研究紹介がありました。前半5演題のテーマは抗がん剤治療における副作用発現状況とその要因の解析及び薬剤師の介入効果の紹介など、また後半の4演題では各種抗がん剤療法における手法の比較検討や抗がん剤使用の管理にか

かわる現状と工夫などの紹介があり、活発な討論が繰り広げられました。最後に、今回は本学副学長の浅香正博先生に、「がんはどこまで防げるのか」と題し、特別講演をしていただきました。がんの成因や発症の傾向、対策など幅広く解説していただき、がんを単に治療するだけではなく、予防の重要性を強調され、今後の日本のがん対策に対する示唆に富んだ講演でした。多数の参加者が観点の異なる立場からの貴重な講演を傾聴しました。今回の開催も地域がん医療薬剤師養成基礎講座にふさわしい研究討論会であったと確信しております。多くの参加者の皆さんの活発な質疑応答により討論会が有意義なものになったことに感謝いたします。上記3回の参加者は合計で120名を数え、充実したプログラムであり、ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

本プログラムはその前身である平成19年度から5年間実施された「北海道の総合力を生かすプロフェッショナル養成プログラム」(札幌医科大学、北海道大学、旭川医科大学、北海道医療大学を拠点とする相互連携事業)から引き継がれたものであり、「地域がん医療」をテーマとして継続して行われている各種プログラムが、年を重ねるごとにその内容が充実し、参加者のプロフェッショナル養成の基盤推進にふさわしい取り組みに発展していることに対し、主催者を代表して御礼申し上げます。

今年度は5ヵ年計画の4年目ということもあり、最終年度のまとめの基盤となる取り組みとなりました。今後もさらなる発展をめざして、「地域がん医療薬剤師」のますますのレベルアップに微力ながら貢献していきたいと思っております。

今後とも皆様のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。





# 北海道医療大学の がんプロフェッショナル 養成基盤推進事業

「北海道がん医療を担う医療人養成プログラム  
—地域がん医療の充実と最先端がん研究の推進—」について

01

北海道医療大学の教育コース

02

# 01 「北海道がん医療を担う医療人養成プログラム —地域がん医療の充実と最先端がん研究の推進—」について

## 文部科学省「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」

「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」は、複数の大学がそれぞれの個性や特色、得意分野を活かしながら相互に連携・補完して教育を活性化し、がん専門医療人養成のための拠点を構築することを目的として、文部科学省が大学改革推進等補助金(大学改革推進経費)対象事業として実施するもので、高度ながん医療、がん研究等を実践できる優れたがん専門医療人を

育成し、わが国のがん医療の向上の推進を図るものです。

本事業の前身である旧「がんプロフェッショナル養成プラン」から引き続き、本学と札幌医科大学、北海道大学、旭川医科大学の4大学の共同による「北海道がん医療を担う医療人養成プログラム —地域がん医療の充実と最先端がん研究の推進—」を申請し、選定されました。

**1 目的** 広大な医療圏を形成する北海道において、がん専門医療人を養成することは重要な課題であり、前回のがんプロフェッショナル養成プランは大きな成果を上げました。

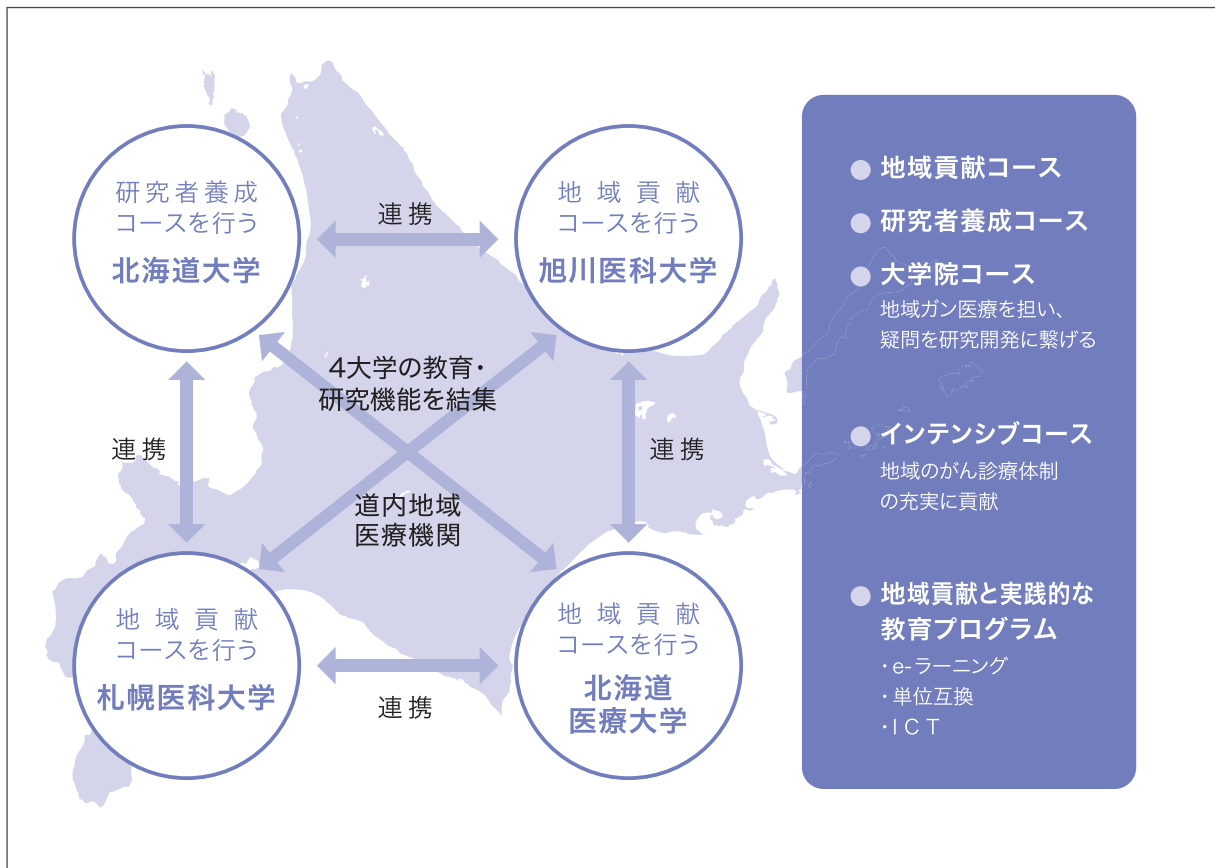
しかし、がん専門医療人の多くは、都市部の基幹病院に集中しており、遠隔地のがん患者の多くは、専門的な治療を受けることが困難な状況にあります。

そこで、今回のプログラムでは、道内4つの医療系大学(札幌医科大学、北海道大学、旭川医科大学、北海道医療大学)が地域の医療機関と連携して、チーム医療研修、カンファレンスなどを行い、遠隔地の医療機関に従事するがん専門医療人に対して、高度ながん専門教育を受けられるようにし、地域のがん専門医療人の養成とがん医療レベルの向上を図るものです。

**2 概要** 本プログラムは、北海道内の4つの医療系大学が道内地域医療機関と連携して、単位互換による講義、全国レベルのe-ラーニングクラウドの活用、インターネット等の情報通信技術(以下ICT)によるカンファレンス、チーム医療研修などを行って、遠隔医療機関で研修する医師やがん診療医療人に地域医療に従事しながら高度の専門教育を受けられるようにし、地域のがん専門医療人の養成とがん医療レベルの向上を図り、さらに、臨床を出発点とした最先端のがん研究の基盤作りを推進するものです。

**3 組織体制** 本プログラムでは、道内4医療系大学のプランに関係する研究科長、コーディネータ、各コース担当責任者等からなる「がんプロフェッショナル養成基盤推進ボード」(以下「推進ボード」という。)を設置しています。推進ボードでは、プラン全体の周知のほか、地域の医療機関との調整、インテンシブコースの企画・運営管理を行います。

また、プランの取組について、その進捗を適切に評価するとともに、運営に関する意見聴取を行う組織として、学長等をはじめ、北海道、職能団体、北海道がんセンター等からなる「評価委員会」を設置しています。評価委員会は、プランの内容の改善や質の向上等を審議し、推進ボードに対して意見を具申します。推進ボードはこの意見を踏まえて、コース内容、運営方法等の点検を図り、より実質的な成果が得られるよう改善するとともに、これらの改善点を公表します。





## 02 北海道医療大学の教育コース

### がん看護コース

(緩和ケアリソースナース)  
養成プログラム

#### ①教育の目的

がん患者・家族が住み慣れた地域で安心して療養できるよう、ケアとキュアを統合した緩和ケアサービスが提供できるとともに、緩和ケアサービスを効果的にマネジメントし、地域において緩和ケアに携わる保健医療職などを支援するリソースナースとして活躍できる人材を養成する。

#### ②教育内容の特色

- ケアとキュアを統合した高度な看護実践力養成のために、臨床判断力と実践力を強化したカリキュラムの展開
- 地域における緩和ケアサービスのマネジメント力、およびリソースナースとしての能力開発・実践力養成のため他職種参加のもとでの課題設定による演習や実習
- 学外のがん看護に携わる看護師も参加した事例検討と講義を組み合わせた学習会の開催

#### ③養成(受入) 予定人数

3名(各年度)

### 地域がん医療 薬剤師コース

(インテンシブコース)

#### ①教育の目的

先進的がん化学療法や患者ケアに関わる高度な専門知識と臨床能力を持ち、他の薬剤師に対し指導的役割を担うとともに、地域におけるがん医療の推進について、他の医療スタッフと協働して実践することのできるリーダー的薬剤師を養成する。

#### ②教育内容の特色

- 北海道内のがん拠点病院等の薬剤師や職能団体等との連携により、がん医療におけるレジメン管理など具体的事例および課題に関するセミナー、ワークショップにより、広く情報の共有を図る実践的なプログラムの展開
- がんターミナルケアなど、今後増大する地域の在宅ケアにかかわるニーズに対応するため、これまで対象となることが少なかった保険薬局薬剤師を対象とした地域ニーズに即したプログラムを展開

#### ③養成(受入) 予定人数

30名(各回)

【4大学連携プログラム】

### 地域がん

### 医療人コース

(インテンシブコース)

#### ①教育の目的

がん診療における最新の知識を習得することで、地域におけるがん患者・家族に対して適切な疾患・治療情報を提供できるとともに、がん診療基幹病院と連携をとりながら、地域の医療レベルや患者・家族の状況に応じたがん診療の提供や療養支援ができる人材を養成する。また、多職種が連携したがん診療の重要性、希少疾患のコンサルテーションの重要性を理解し、地域がん診療ができるチーム連携能力の高いがん専門医療人を育成する。

#### ②教育内容の特色

- 北海道の広い地域性を考慮し、4大学が協力して、地域医療機関に出向きがん診療への参加やセミナーを行うことによる、地域におけるチーム医療の充実やがん医療人の生涯教育の支援
- 地域がん診療拠点病院をはじめとする地域医療機関と大学との間に既に設置しているICTを積極的に活用して、最新のがん医療情報の習得が困難な地域の医療人を対象とした、がんに関するセミナー、公開カンファレンス、がん診療ボードや地域医療機関での研修会の開催を通じた生涯教育による、地域のがん診療レベルの向上

#### ③養成(受入) 予定人数

200名(各年度)

平成27年度 北海道医療大学  
がん看護コース

事業報告

緩和ケアリソースナース養成プログラム 01

特別セミナー 02

## 01 緩和ケアリソースナース養成プログラム

コース担当者 櫻庭 奈美

本学のがん看護コースでは、地域がん医療を担う人材養成の事業としてがん看護専門看護師及び大学院生、大学院進学希望者を対象に「緩和ケアリソースナースプログラム」を企画しております。がん看護専門看護師の資格取得にとどまらず、各々の修了生が相互支援の輪をつなげ、お互いに成長し合うスーパービジョン体制を構築していくこともサポートしたいと考えております。

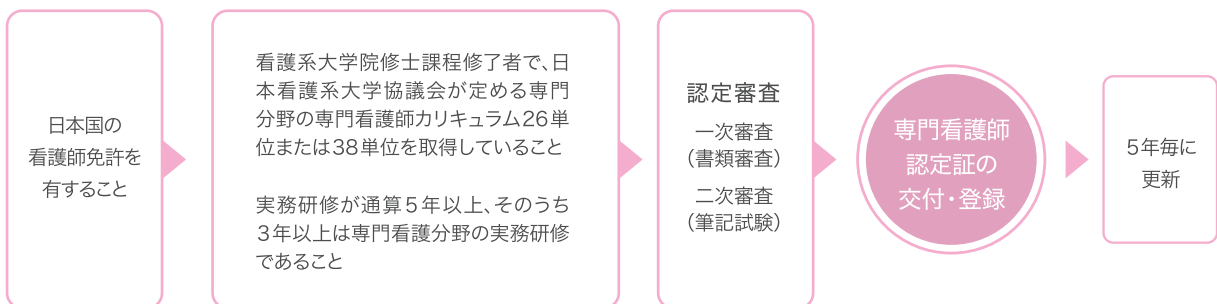
以下、がん看護専門看護師養成に関する現況、平成27年度養成プログラム事業について報告します。

### がん看護専門看護師の養成に関する現況

専門看護師Certified Nurse Specialists(CNS)とは、日本看護協会専門看護師認定試験に合格し、複雑な健康問題を抱えた個人とその家族および集団に対して、質の高い知識と技術をもって卓越した看護実践能力を発揮する看護師を示しています。専門看護師は、修士課程において学問としての看護学と実践科学としての看護を融合させ、学問的基盤を持ちながら臨床において、実践、相談、倫理調整、教育、研究の6つの役割を果たすことが求められており、知識と技術の質の維持、向上のため認定後も5年ごとに資格更新制度が設けられています。

1996年に日本看護協会ががん看護と精神看護分野での認定を開始し、2012年12月に在宅看護分野が追加され、2015年現在では全11分野となっています。2016年3

月現在、全国で1,678人(前年度+212人)が認定され、その内、がん看護専門看護師の認定数は656人(前年度+75人)、道内でのがん看護専門看護師数は31人(前年度+4人)となっており、うち資格取得者の半数を本学修了生が占めております。



## 平成27年度事業について

コース担当者 櫻庭 奈美

今年度の主な事業は、4大学共同事業となる地域がんセンターへの参画、大学院受験支援としての特別セミナーの開催、がん看護専門看護師の養成、北海道専門看護師の会共催による年4回の事例検討会及び2回の研修会でした。事例検討会は学生支援事業として行っており、4回開催のうちの2回は東邦大学医療センター大森病院 精神看護専門看護師の梅澤志乃先生と上智大学准教授 渡邊知映先生からスーパーバイズをいただきました。以下、平成27年度養成プログラム事業について報告します。

### 開催日程

#### ■緩和ケアリソースナース養成プログラム研修会

	テーマ / 講師	受講者数
第1回 2015.11.8(日) 13:30～15:30	調整・教育におけるOCNSのコミュニケーションスキル 講師 梅澤 志乃(東邦大学医療センター大森病院 精神看護専門看護師)	21名
第2回 2016.1.23(土) 10:00～12:00	がん治療を受ける女性へのセクシャリティに関する支援について 講師 渡邊 知映(上智大学准教授)	26名

#### ■学生支援事業(OCNS事例検討会)

	テーマ / 講師	受講者数
第1回 2015.8.22(土) 13:30～15:00	OCNSの役割開発 事例提供者 山田 琴絵(KKR札幌医療センター がん看護専門看護師) ※北海道専門看護師の会 共催	11名
第2回 2015.10.17(土) 13:30～15:00	OCNSの倫理調整 事例提供者 納谷 さくら(東札幌病院 がん看護専門看護師) ※北海道専門看護師の会 共催	10名
第3回 2016.1.23(土) 13:00～15:00	がん患者のセクシュアリティを考えたケア アドバイザー 渡邊 知映(上智大学准教授) 事例提供者 吉田 奈美江(時計台記念病院 がん看護専門看護師) ※北海道専門看護師の会 共催	14名
第4回 2016.2.27(土) 13:00～15:00	OCNSのコンサルテーション ～コンサルテーション事例の振り返りを通してOCNSの役割開発を図る～ 事例提供者 松山 茂子(市立札幌病院 がん看護専門看護師) ※北海道専門看護師の会 共催	10名



## 01 緩和ケアリソースナース養成プログラム

### ■ 緩和ケアリソースナース養成プログラム (研修会)

#### 第1回 調整・教育におけるOCNSのコミュニケーションスキル

平成27年度がんプロフェッショナル養成基盤推進プランの第1回目の講演は、「調整・教育におけるOCNSのコミュニケーションスキル」をテーマとして、梅澤志乃先生をお迎えしました。梅澤先生は、東邦大学医療センター大森病院で精神看護専門看護師として活躍されており、学会や教育セミナーなどで、緩和ケア領域のコミュニケーションなどの講演を多数お引き受けしているという大変お忙しい中でしたが、今回、札幌にお招きすることができました。

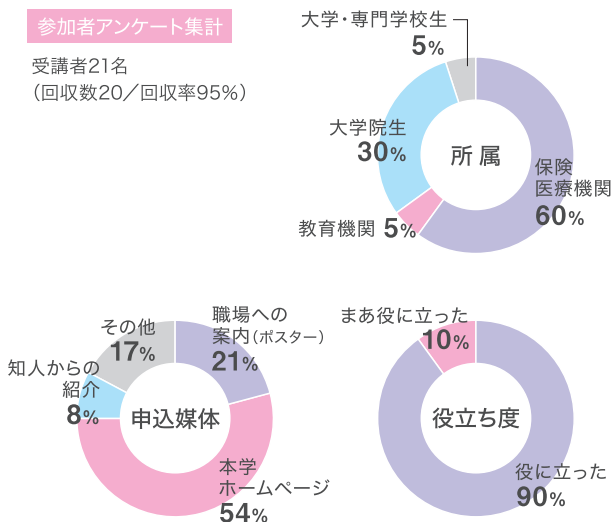
平成26年度の診療報酬の改定により、がん患者指導管理の充実が望まれ、がん患者の精神・心理的なケアや継続的な指導管理が求められるようになりました。これまでも、对患者・家族との面接やカウンセリングを行っていましたが、北海道のがん看護専門看護師も資格更新者が増えるに連れ、調整や教育といった横断的な役割を担う場面や機会も増加し、対看護師・他職種といった場面でもコミュニケーションスキルが問われることがあります。さらに平成28年度に診療報酬改定では、地域包括ケア推進のために訪問看護体制や診療所との連携・協働といった分野への改定が見込まれており、今後は地域や他施設の医療従事者との調整・連携の機会が増加すると思われます。今回の講演では、キャリアを重ねるに連れ、コミュニケーションの大切さと難しさを痛感するという参加者の声に応えたロールプレイを用いた実践的な内容を多く含むものでした。

特に印象的だったのは、看護師と患者の言葉のやりとりを抜き出し、会話のどこに違和感があるか、自身はどのような感情を抱いたか、さらに、やりとりのどこがどう変わると会話が変わるのかといったプロセスに焦点をあて、相手の言葉にどう応えることができるかを検討した点です。このワークを行うことで参加者自身のコミュニケーションの癖に気づくことができ、さらにどのような言葉を選んで伝えると良いかといった示唆を得ることができました。

今回は、札幌市内外の病院勤務している数名の看護師や大学・専門学校生にもご参加いただくことができました。参加者の所属からもコミュニケーションがOCNSだけに限ったテーマではなかったことがうかがえました。参加者からは「コミュニケーションスキルの再確認の時間になった」、「日頃のコミュニケーション困難場面では、自分のやりとりの振り返りや、その時の感情に向き合ってみようと思えた」といった感想が寄せられ、今回の研修でたくさんの学びを得ることができたのではないかと思います。研修の開催方法について、シリーズ化や他領域との合同セミナー開催への要望も寄せられておりました。がん医療を担う医療人養成プログラムとして開催しているセミナーではありますが、より教育効果の高い研修形式を検討し、次年度の開催に活かしていきたいと考えております。

### 参加者アンケート集計

受講者21名  
(回収数20/回収率95%)



### [ ご意見 ]

- CNSではないが、普段のコミュニケーションの方法だけでなく、自分のマイナスな感情を認めること、自己不一致のこと、学べて良かったです。ありがとうございました。
- 自分の「こうあらねば」という意識がコミュニケーションの障害になっていたのではないかと振り返ることができました。患者さんの話は聞けるのに、スタッフの話を聞けていない自分にも。ありがとうございました。
- 具体的内容で実践に活かせると思いました。日頃のコミュニケーション困難場面では、自分のやりとりの振り返りや、その時の感情に向き合ってみようと思います。
- コミュニケーションのロールプレイを体験し、学びを体感することができました。
- すぐく臨床にある場面を丁寧に解説していただいた。対Nsになった場面、どうしていったらいいのか、自分の中で考えていく必要がある。

## ■ 緩和ケアリソースナース養成プログラム (研修会)

### 第2回

## がん治療を受ける女性へのセクシャリティに関する支援について

平成27年度がんプロフェッショナル養成基盤推進プランの第2回目の講演は、「がん患者のセクシャリティを考えたケア」をテーマとして、渡邊知映先生をお迎えしました。「セクシャリティは特別なことではない」との言葉をかわきりに、参加者の熱意と先生の温かさに包まれて講演が始まりました。渡邊先生は、上智大学 総合人間科学部 看護学科 准教授として活躍されている中、昭和大学病院でも外来業務を兼務しており教育と臨床の二つの立場から看護を実践しておられます。大変ご多忙の中、さらに爆弾低気圧が近づく中ではありましたが、今回、講演会の合間を縫ってお招きすることができました。

現在、日本におけるがんサバイバーは増加しています。背景には、がん検診の受診率、検出率、早期診断の進歩、向上により若年者のがんサバイバーが増加していること、それに加え、がん治療の技術、医薬品の開発により5年生存

率が上昇していることが挙げられます。がん治療が多様化し、これまで以上にがんと共に生活をする期間が長期化していることで新たな課題も指摘され始めています。そのひとつが、がん治療に伴うセクシャリティに関する支援です。化学療法による妊孕性低下の可能性、手術後生殖器、付属器周辺の形態の変化や生理学的変化によってパートナーとの関係性や家族関係に大きな影響を与えることもしばしば見られています。患者とその家族に任せるのではなく、一人ひとりの患者のニーズをアセスメントし、患者に合わせた必要な情報量をタイミングよく伝えることで、看護師ががん医療と生殖医療の橋渡しを行っていくことが可能であると学ぶことができました。

今回は、札幌市内の病院に勤務している数名の看護師にもご参加いただくことができました。参加の動機を伺うと若年性のがん患者への対応に苦慮する場面にてあったこ

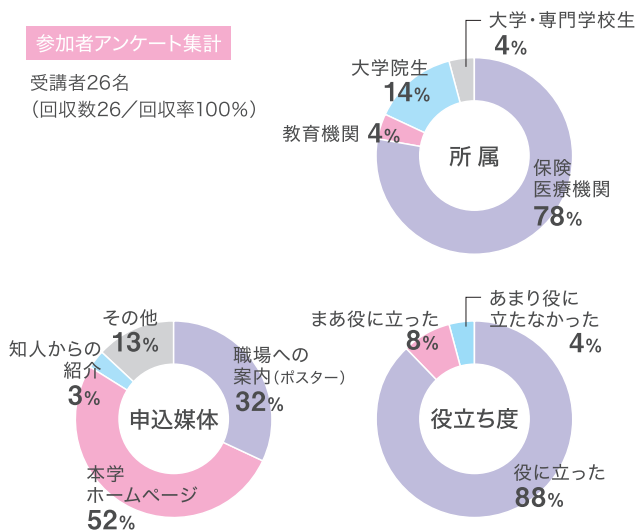
## 01 緩和ケアリソースナース養成プログラム

とや、具体的な支援、声のかけ方やタイミングなどを知りたいといった実践の示唆を期待され参加されておりました。講演会参加者からは「無意識のうちにそういう話題を避けていたが、医療者としても自分の価値を振り返りながら、今後のケアに活かしていきたい」、「セクシャリティ=性だけでなく、人生そのものを考えたケアについて学ぶことができた」といった感想が寄せられ、大切とわかっているが難しいセクシャリティへのケアを身近に感じることはできたのではないかと思います。さらに、「治療前にこの(セクシャリティ)ことを

持ち出すと医師に「よけいなことを」という認識をもたれる」といった感想もありました。看護師だけでなくがん医療に携わる医療者それぞれの価値の違いを踏まえながら協働していけるようなシステムを築くためにも日々のCNSの活動が大切であると感じました。

### 参加者アンケート集計

受講者26名  
(回収数26/回収率100%)



### [ご意見]

- 具体的でわかりやすかった。考える場をもちながらすすめて下さってよかった。
- 30代、40代の女性の、特にがん病期が進行したがん患者の看護をする機会が続いていて、今回は研修会で渡辺先生のお話をきけた事は、大変よかったです。セクシャリティ=性だけでなく、人生そのものを考えたケアについて学ぶことができました。
- 大切だとは思いつつ、向きあえていなかった分野であることに気づけました。周囲もまきこんでとり組んでいきたいと思えます。
- 実践内容を聴講でき、すごく良かった。目的意識づけができた。
- よく耳にするが、ちゃんと考えたことや学んだことがなかったので、目からウロコでした。
- 今までセクシャリティの視点でケアを考えたことがほとんどなく、とても興味深く聞かせて頂きました。今まで自分の中で“特別”なものとして考えていたような気がします。自分の中の価値観もふり振り返りながら、今後ケアを行っていききたいと思います。



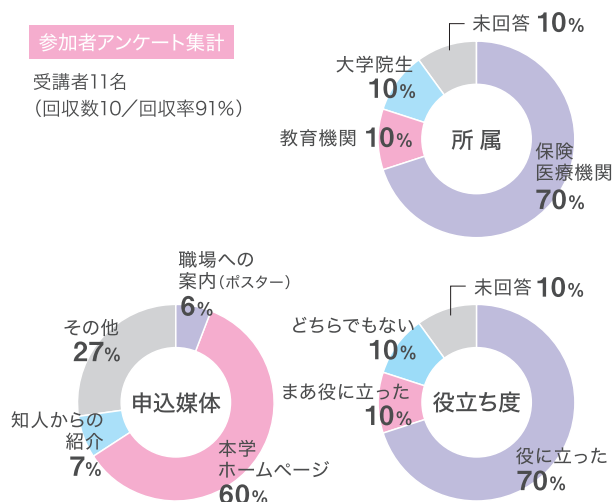
## OCNSの役割開発

平成27年8月22日（土）13:30からACU中研修室において、文部科学省選定 がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン がん看護コース 緩和ケアリソースナース養成プログラム学生支援事業によるOCNS事例検討会を開催しました。OCNS事例検討会は、今年度も北海道専門看護師の会の共催のもと開催しています。今回のテーマは「OCNSの役割開発」で、参加者はCNS、CNSコース大学院生および修了生、今後受験を考えている看護師を合わせ11名でした。事例提供は、KKR札幌医療センターのがん看護専門看護師 山田琴絵さんでした。

山田さんがOCNSの認定を受けてから、組織から求められる役割に挑戦しながら活動の場を広げ、また、現場の声に答えていけるように取り組みられたプロセスを話してくださいました。参加者からは、CNSとしての活動を組織に見える化していくためにはどうしたらよいか、CNとの協働をどのようにしていくとよいか、等の質問があり山田さんと参加者のCNSからの意見交換が行われました。意見交換を行う中で、役割開発をしていくには、組織分析と組織から求められている役割を認識し、実績を提示していくことが重要であることをそれぞれが再確認しました。

### 参加者アンケート集計

受講者11名  
(回収数10/回収率91%)



### [ ご意見 ]

- 具体的な活動を知ることが出来た。
- 意見交換や皆さんの現状について聞けて良かった。
- 今後の活動を考えたり、進めていく中で、他施設で活動しているCNSの方からの意見や助言が大変参考になりました。
- 今後の自分の役割を考えていくために、他の方の意見が聞けて良かった。
- 組織から、大学院修了したからこんなことをして欲しいという要望が複数あり、そこに向けて少しずつですが活動しています。先輩の活動で自分の活動をどのようにしていくか、ヒントをもらうことが出来ました。まず、組織分析、短期・長期の活動計画を立てていきたいと思います。





## 01 緩和ケアリソースナース養成プログラム

### ■緩和ケアリソースナース養成プログラム（事例検討会）

#### 第2回 OCNSの倫理調整

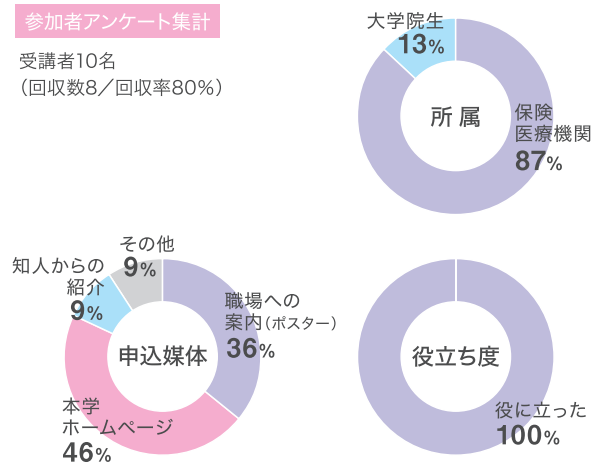
平成27年10月17日(土)13:30からACU中研究室(1205)において、文部科学省選定「がんプロフェSSIONナル養成基盤推進プラン」がん看護コース緩和ケアリソースナース養成プログラム学生支援事業によるOCNS事例検討会が、北海道専門看護師の会共催のもと開催されました。

今回のテーマは「OCNSの倫理調整」で、参加者はCNS、CNSコース大学院生および修了生を合わせて10名でした。事例提供は、東札幌病院の納谷さくら「がん看護専門看護師」で出血による急変のリスクが高い頭頸部がん患者さんと不安の強い家族に対して、どのようにアドバンス・ケア・プランニングを進めていくかについて2つのグループにわかれ検討がされました。

ディスカッションの中から、意思決定能力のある患者であってもDNRの確認をとることの難しさや、意向が変化することも考慮する中でどのように確認したらよいのかなどが話し合われました。参加者ひとりひとりが、自分も出会うであろう事例として、それぞれの環境の中でどの様に対応していくのが良いのか率直な話し合いがされていました。

#### 参加者アンケート集計

受講者10名  
(回収数8/回収率80%)



#### [ ご意見 ]

- 倫理に関しては臨床の様々な場合で起こるので、今回は心肺蘇生について学ぶことが出来ました。
- 倫理、意思決定といっても色々な場面があるんだなーと思った。事例によって対応の仕方を変えたり、適切なタイミングを逃さないようにしていかないといけないと思った。
- 自部署でも起こりうる事例で、今後どうしたら良いか、自分はどのように考えるか、など考えるきっかけになりました。
- 考えさせられる事例でした。皆様の意見を聞けてよかったです。
- 患者と家族の意向は、確認のタイミングがあり、それを見計らうスキルが必要であることと、コミュニケーションの大切さを理解できた。



## がん患者のセクシュアリティを考えたケア

平成28年1月23日(土) 13:00から北海道医療大学札幌サテライトキャンパスにおいて、文部科学省選定がんプロフェッショナル養成基盤推進プランがん看護コース緩和ケアリソースナース養成プログラム学生支援事業によるOCNS事例検討会が、北海道専門看護師の会共催で開催されました。

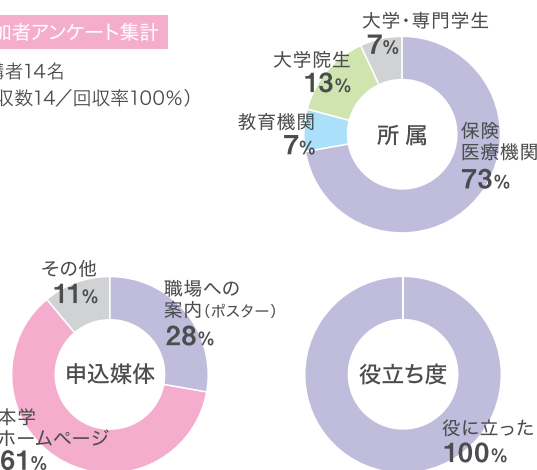
今回のテーマは「がん患者のセクシュアリティを考えたケア」で、参加者はCNS、CNSコース大学院生および修了生、看護師を合わせて14名でした。事例提供は、時計台記念病院の吉田奈美江 がん看護専門看護師で、子宮・卵巣摘出に加え、乳房の部分切除を短期間に経験した患者の不安と家族への関わりについて発表されました。また、アドバイザーとして上智大学総合人間科学部看護学科の渡邊知映先生にもご参加頂きました。

グループワークからの意見として、患者や家族に関する情報収集に不足があると指摘がありましたが、渡邊先生よりセクシュアリティに関わる情報の共有は慎重に、情報を得る必要性についても明確にした上で関わる必要があるとの助言がありました。また、不安のケアにおいて傾聴が重視されるが、患者が自分自身に起きている事象についてネガティブな意味づけをしている場合には、会話する

中でケア提供者がポジティブな意味づけへと導くことも必要であり、そのための患者・家族との関係性づくりの大切さについて知る機会となりました。また、患者への継続的なケアを実現するために部署を越えた多職種による関わりは必須であり、CNSには人と人、部署と部署をつなぐ役割があるということも再認識されました。

### 参加者アンケート集計

受講者14名  
(回収数14/回収率100%)



### [ ご意見 ]

- 実践で活かせる、生活のことやニーズの理解、性の多様性を理解することが大切であると理解出来た。
- 臨床で具体的に悩んでいる関わり方など様々な方向で考える機会になった。
- 患者さんにとっても、看護師にとってもセクシュアリティに関して言葉にするのが難しい(しづらい)のですが、careにつなげることが出来るような言葉の掛け方を勉強していきたいと思った。
- 午前の講義を受けて、さらに事例検討をグループで話し合うことで、学びを深めることが出来ました。
- 方法の前に何が知りたくて、何のために知りたいのか考えること、先生の具体的なアドバイスが役に立ちました。ありがとうございました。
- 私たちの仕事は、知識と経験(振り返りや状況に合わせたアセスメント・看護など)の両方が必要だから、症例検討が大変勉強になりました。



## 01 緩和ケアリソースナース養成プログラム

### ■緩和ケアリソースナース養成プログラム（事例検討会）

第4回

## OCNSのコンサルテーション ～コンサルテーション事例の振り返りを通してOCNSの役割開発を図る～

平成28年2月27日(土) 13:00から、北海道医療大学札幌サテライトキャンパスにおいて、文部科学省選定「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン がん看護コース緩和ケアリソースナース養成プログラム学生支援事業」によるOCNS事例検討会が、北海道専門看護師の会共催のもと開催されました。

今回は、「OCNSのコンサルテーション ～コンサルテーション事例の振り返りを通してOCNSの役割開発を図る～」をテーマに、市立札幌病院 がん看護専門看護師の松山茂子さんに事例提供していただきました。参加者はCNSやCNSコース修了生、大学院生の合計10名で、参加者全員で、コンサルテーションのプロセスを一つずつ確認しながら、ディスカッションする形式で進行了ました。

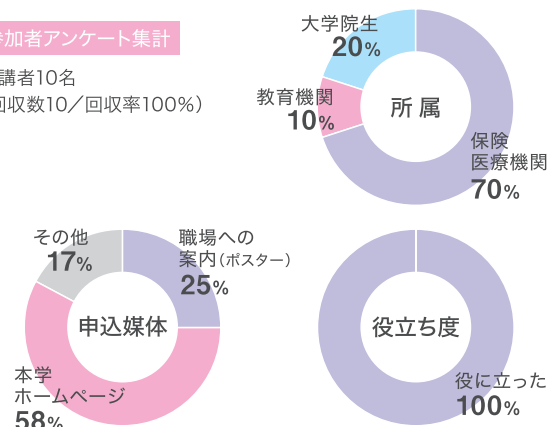
松山さんが実際に対応したコンサルテーション事例の内容でしたが、コンサルテーションのプロセスごとに区切って発表していただき、プロセスごとに参加者は自分だったら相談内容をどうとらえるか、アセスメントすべきことや必要な情報は何か、又その理由も述べるといったこれまでの事例検討とは一味違うディスカッションとなりました。参加者自身の思考や意図を言葉にし、その思考を聞くことで、アセスメントの視点の多様性や方略の拡がりなど、CNSの役割の奥深さを学習することができました。

普段は、CNSの思考について詳細に聞くことができる機会

はほとんどありませんが、お互いの考えの意図まで出し合うことで、リソースとして活用されるために必要な幅広い思考過程を実感できる事例検討となりました。

#### 参加者アンケート集計

受講者10名  
(回収数10/回収率100%)



#### [ ご意見 ]

- 様々な思考があり、皆さんの意見を聞けて学びになりました。
- 日々の看護を振り返ることができた。
- コンサルテーションとは何かについて考え直す機会になった。
- 役割を開発していくにあたり、自分が少し悩んでいる時期でした。他のCNSがどのような取り組み(役割開発にむけ)をされているのか、参考になる部分も多かったです。
- 普段実践しているコンサルテーションのアセスメントに関する視点の拡がりを学んだ。
- 皆で話し合う時間が多く取れたのが良かった。



## 臨地実習について

コース担当者 櫻庭 奈美

今年度は4名の大学院生が入学しました。臨地実習Iでは、学生がこれまでの臨床経験から成る疑問や困難と今後の活動へのビジョンを考慮し、地方独立行政法人 神奈川県立病院機構 神奈川県立がんセンター、医療法人 手稲溪仁会病院、社会医療法人博愛会 相良病院、独立行政法人労働者健康福祉機構 東北労災病院のがん看護専門看護師の方々にご協力いただきました。

院生にとっては、これまでの臨床で自らがアセスメントしケアしてきた事象の捉え方が異なることや、可視化されたものとCNSの思考を結びつけることへの困難がありました。院生からは「看護場面を切り取って考えることの難しさを痛感した」、「事例から看護実践の意味付けを丁寧に振り返ることを通してクリティカルシンキングの訓練ができた」との

感想が聞かれ、CNSと同じ情報から判断や予測性の違いに気づくことが出来、自己のこれまでの思考プロセスを振り返るきっかけとなっていたように感じます。さらに、大学院生として患者さんやご家族に接する機会を通して「これまでの文献検討の範囲が狭かったことに気付くことができた」、「研究方法の見直しの必要性を感じた」など、自身の研究に対する考えを深めることができていました。

二年次は6つの役割に対する臨地実習や学内外から緩和ケアのサブスペシャリティを高めるための講師による知識学習と論文作成過程を通し多クリティカルシンキングスキルの向上を目指します。これらのカリキュラムを踏まえ、院生にとってより広く包括的な視点から事象を捉える能力につながることを期待しています。

### ■平成27年度 臨地実習一覧

実習先	実習担当者	実習期間
北里大学病院	佐藤 美紀氏 (がん看護専門看護師)	平成27年10月5日～平成27年10月23日 (期間中 15日間)
		平成28年1月18日～平成28年2月5日 (期間中 15日間)
	近藤 まゆみ氏 (がん看護専門看護師)	平成28年1月12日～平成28年1月22日 (期間中 9日間)
神奈川県立がんセンター	田中 久美子氏 (がん看護専門看護師)	平成27年10月5日～平成27年10月23日 (期間中 15日間)
		平成28年1月18日～平成28年2月5日 (期間中 15日間)
手稲溪仁会病院	田中 いずみ氏 (がん看護専門看護師)	平成28年2月29日～平成28年3月11日 (期間中 10日間)
東北労災病院	小田島 綾子氏 (がん看護専門看護師)	平成28年2月29日～平成28年3月11日 (期間中 10日間)
相良病院	江口 恵子氏 (理事長補佐・副看護部長)	平成28年3月14日～平成28年3月25日 (期間中9日間)



## 02 特別セミナー

コース担当者 櫻庭 奈美

今年度の第一回特別セミナーは、本学看護福祉学研究科の共催のもと、本学札幌サテライトキャンパスにおいて平成27年7月8日に開催されました。この特別セミナーは本学独自のがんプロフェッショナル養成基盤推進プラン事業であり、がん看護専門看護師を目指す方々の就学支援を積極的にサポートするためのセミナーです。

はじめに、本学の看護福祉学研究科の沿革、教育方針やコース、教育内容と履修に関する説明があり、受講生が院生になるための具体的な方法、院生になった後の過ごし方をイメージできるようになっています。そして、後半は、がん看護専門看護師コースの受験者だけを対象に開催される特別セミナーとなっています。

今回は、4名の参加者と、本学がん看護CNSコースの在籍者2人が加わり、受験の準備、就学後の学業や学生生活について話し合われました。申し込み媒体としては、本学の修了生や本学修了生が活躍している姿を肌で感じた方からの口コミを含めた「知人からの紹介」が5割を占めていました。

参加者からは、大学院を受験するにあたり研究への心構えや、実際に入学した後の研究計画の進め方などについて質問がありました。現在、CNSコース在籍者は、ちょうど研究計画書の作成を終え、実際にインタビューを開始しています。在籍者からは、入学準備段階から研究遂行の今までの自己の研究テーマの変遷を聞くことができました。

また、在籍者からこれまでの自分と物事に対する考え方や、事実を捉える力などが変化し自己成長を実感していることや、国際学会に参加し、新たな自己の課題と将来像がイメージできた話がありました。参加者の事後アンケートでは「在学生の話しは役に立った」が100%の回答であり、参加者にとっても良い刺激となる役に立つ内容であったと思います。

在籍者それぞれの背景も異なる中、仕事との両立、家族からのサポートの得方など、実際の話は、参加者の大学院生生活をイメージする上での目安となっていくと考えます。がん看護CNSコース在籍者と直接会って話す機会は、まだまだ少なく、今回参加された方々にとって、今後の自分の進路を決断していくよい判断材料となることを祈っています。今後ともがんプロフェッショナル養成基盤推進プランの一環として、教員が中心となり随時、質問や相談ができる体制を整え入学希望者のサポートをしていきたいと考えております。

### [ ご意見 ]

- 自分の中で不安に思っていたことや、わからなかったことが、少し理解できて、自分の中でイメージが少なくなりました。
- 疑問に思っていたことが解決できた。
- 大学院での過ごし方のイメージがつかまりました。
- 受験を前向きに検討して、自分が院生としてやっていけるかということより、やってみたいと思いました。



平成27年度 北海道医療大学

# 地域がん医療薬剤師コース (インテンシブ)

事業報告

---

---

---

---

---

---

地域がん医療薬剤師養成基礎講座

## 地域がん医療薬剤師養成基礎講座

コース担当者 浜上 尚也

本講座では、「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」事業の一環として、がん専門薬剤師を目指す薬剤師(社会人及び大学院生)を対象に、講義形式の研修や地域での専門医師、看護師等のインテンシブコースとの共同でチームカンファレンスを開催しております。本年度は、2月にシンポジウムと研究討論会を開催し、修了いたしました。

以下に、平成27年度の概略を報告させていただきます。

開催日程			
	テーマ / 講師	会場	受講者数
<b>第1回</b> 2016.2.2(火) 19:00～20:45	<b>シンポジウム：チーム医療の実際①</b> <b>がん化学療法 ～ 北海道消化器科病院を例として ～</b> 講師 佐々木 清貴 氏(医局長/日本がん治療認定医機構認定医) 松永 かおり 氏(がん化学療法看護認定看護師) 鈴木 直哉 氏(外来がん治療認定薬剤師)	札幌サテライト キャンパス	21名
<b>第2回</b> 2016.2.16(火) 19:00～20:45	<b>シンポジウム：チーム医療の実際②</b> <b>緩和医療 ～ JCHO 札幌北辰病院を例として ～</b> 講師 原口 文彦 氏(麻酔科部長/日本麻酔学会指導医) 佐々木 美穂 氏(看護部副部長/がん性疼痛認定看護師) 鈴木 智子 氏(薬剤科主任/緩和薬物療法認定薬剤師)	札幌サテライト キャンパス	25名
<b>第3回</b> 2016.2.27(土) 13:00～16:35	<b>第5回がん薬物療法研究討論会</b> [研究紹介 Part 1] 座長 坂田 幸雄 氏(市立函館病院 薬局) 発表者 北海道内5病院の薬剤師 [研究紹介 Part 2] 座長 井藤 達也 氏(JCHO 札幌北辰病院 薬剤科) 発表者 北海道内4病院の薬剤師 [特別講演] 座長 和田 啓爾 氏(北海道医療大学大学院 薬学研究科長) 講師 浅香 正博 氏(北海道医療大学 副学長)	札幌 全日空ホテル	82名

平成28年2月2日(火) 19:00から北海道医療大学札幌サテライトキャンパスにおいて、文部科学省選定がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン 地域がん医療薬剤師コース(インテンシブコース)「第1回 地域がん医療薬剤師養成基礎講座」としてシンポジウムを開催しました。今回は、「がん化学療法におけるチーム医療の実際」をテーマに、北海道消化器科病院のがん化学療法に携わっているメンバー 3名(医師、看護師、薬剤師)にそれぞれの立場から外来がん化学療法を中心にご紹介いただきました。

始めに、日本がん治療認定医機構認定医 佐々木清貴医師より、最近公開されたわが国におけるがんの部位別10年相対生存率について説明があり、食道がんや肝がん、膵がんなど10年相対生存率が30%未満のものが存在し、早期発見の重要性(早期発見技術)について詳しく説明がありました。次に、外来化学療法室を担当されている松永かおりがん化学療法看護認定看護師より、治

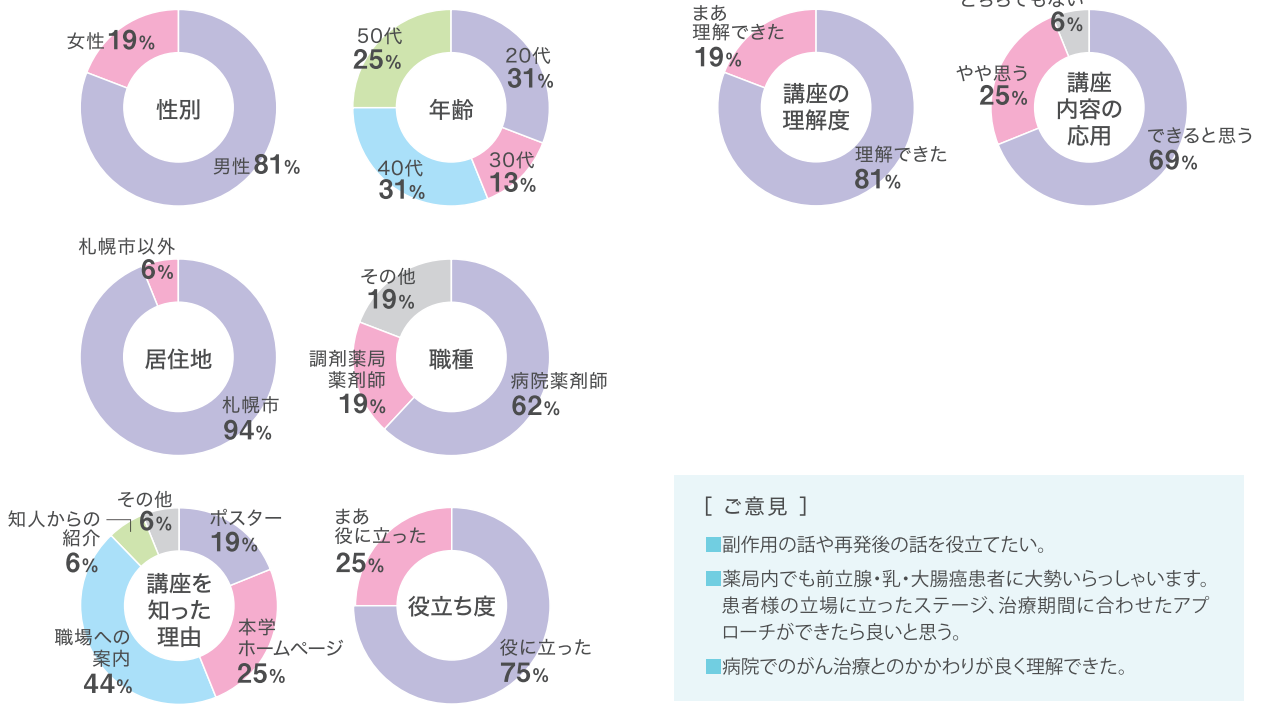
療の流れと他部署との連携、セルフケア支援、患者情報シートの活用など、患者自身の生活や患者ニーズに合わせた対応など患者を看る、関わることの重要性について解説されました。鈴木直哉 外来がん治療認定薬剤師は、外来がん治療認定薬剤師制度について説明された後、実際に取り組んでいる抗がん剤治療による副作用対策について、複数の症例を挙げながら解説されました。情報収集の重要性と業務へのフィードバック、継続的な副作用マネジメントに取り組むことがチーム医療の効率化と患者への治療効果、治療継続に影響することを説明されました。

今回のシンポジウムを通して、がん化学療法を有効に運用するためにはチーム医療が不可欠であること、各々の職種の役割などが具体的に述べられ、今後取り組もうとしている施設にとって参考になる内容でした。



地域がん医療薬剤師養成基礎講座

参加者アンケート集計 受講者21名（回収数16／回収率76%）



第2回 チーム医療の実際② 緩和医療 ～ JCHO 札幌北辰病院を例として ～

平成28年2月16日(火) 19:00から北海道医療大学札幌サテライトキャンパスにおいて、文部科学省選定がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン 地域がん医療薬剤師コース（インテンシブコース）「地域がん医療薬剤師養成基礎講座」としてシンポジウムが開催されました。今回は、「緩和医療におけるチーム医療の実際」をテーマに、JCHO札幌北辰病院の緩和医療に携わっているメンバー 3名（医師、看護師、薬剤師）にそれぞれの立場から緩和医療を中心にご紹介いただきました。

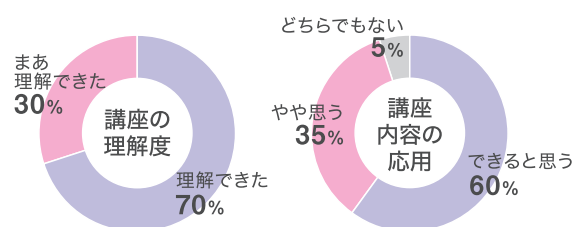
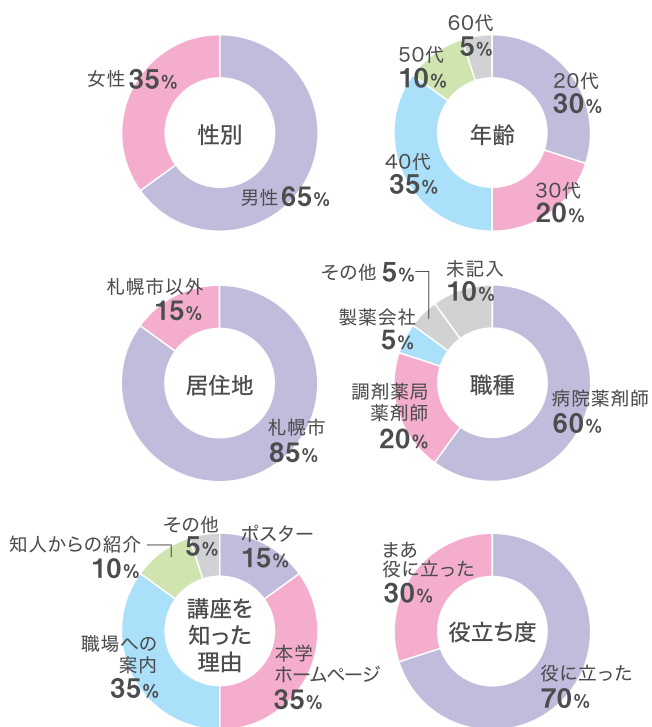
始めに、日本麻酔学会指導医の原口文彦先生より、がん性疼痛のアセスメント、疼痛に用いる治療薬について

紹介があり、緩和ケアチームで関わった1症例を医師・看護師・薬剤師それぞれの視点から見た内容をお話していただきました。がん性疼痛看護認定看護師の佐々木美穂先生からは、緩和ケアチームの看護師は、患者さんのために医療チームの架け橋となること、緩和ケアを担当している医師の指示が病棟看護師に上手く伝わり、ケアにいかされるように配慮していることが示されました。緩和薬物療法認定薬剤師の鈴木智子先生からは、チームの中での薬剤師の具体的な活動内容を発表していただきました。外来患者に対する対応も含めて適時的確に関与、対応されているのが印象的でした。緩和ケアチームの薬剤師

の役割がとても明確に伝わってきました。今回のJCHO  
札幌北辰病院の緩和ケアチームの先生方は、非常にコ  
ミュニケーションが良くとられていることが発表の内容およ  
び総合討論からも伝わってきました。他職種でそれぞれの  
職能を発揮するためには、コミュニケーションが重要です。

緩和ケアの知識と、それを上手にかせる環境・スタッフ  
が重要だと感じました。今回のシンポジウムも薬剤師のが  
ん領域における職能発展に寄与する非常に参考になる  
内容でした。

参加者アンケート集計 受講者25名 (回収数20/回収率80%)



[ ご意見 ]

- 職種ごとの専門性を生かすだけでなく、チームというものを強く意識されていると感じ、またそれを実践できていると思った。
- 緩和ケアチームのそれぞれの役割が非常にわかりやすかった。
- 1つの症例に対して様々な立場からの考えを知ることができた。
- オピオイド投薬時の説明方法がとても参考になった。





地域がん医療薬剤師養成基礎講座

第3回

第5回がん薬物療法研究討論会

研究紹介

Part 1

座長/坂田 幸雄氏(市立函館病院 薬局)

	演 題	発表者
1	セツキシマブ・パニツムマブによる副作用発現状況と介入効果	杉浦 央氏 (製鉄記念室蘭病院 薬剤部)
2	大腸癌術後補助化学療法におけるmFOLFOX6投与患者のオキサリプラチン投与用量強度と無病生存期間及び末梢神経障害の評価	地主 隆文氏 (北海道消化器科病院 薬局)
3	精巣腫瘍患者の5日間シスプラチンレジメンに対するアプレピタント併用時のパロノセトロンとラモセトロンの有効性の比較	高田 慎也氏 (国立病院機構 北海道がんセンター 薬剤部)
4	札幌厚生病院におけるnab-paclitaxel+gemcitabine療法の副作用発現状況および治療強度の調査	能登 数馬氏 (JA北海道厚生連 札幌厚生病院 薬剤部)
5	バクリタキセル(アルブミン懸濁型)における末梢神経障害の発症状況とその因子についての検討	鈴木 訓史氏 (国立病院機構 旭川医療センター 薬剤部)

研究紹介

Part 2

座長/井藤 達也氏(JCHO 札幌北辰病院 薬剤科)

	演 題	発表者
6	外来化学療法における流量制御システムが異なる携帯型持続注入ポンプの比較検討	丸山 卓哉氏 (JA北海道厚生連 遠軽厚生病院 薬剤科)
7	頭頸部癌TPF療法におけるマグネシウム投与による腎機能障害予防効果の検討	北山 秀則氏 (恵佑会札幌病院 薬剤科)
8	当院におけるフェンタニル舌下錠の使用実態調査と管理シートの作成	日下部 鮎子氏 (新札幌豊和会病院 薬剤科)
9	東札幌病院でのCHOP likeレジメンにおけるベグフィルグラスチム使用による白血球数推移の検討	小池 奈穂氏 (東札幌病院 薬剤課)

特別講演

座長/和田 啓爾氏(北海道医療大学大学院 薬学研究科長)

	演 題	発表者
	がんはどこまで防げるのか	浅香 正博氏 (北海道医療大学 副学長)

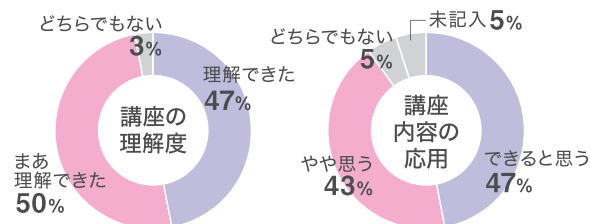
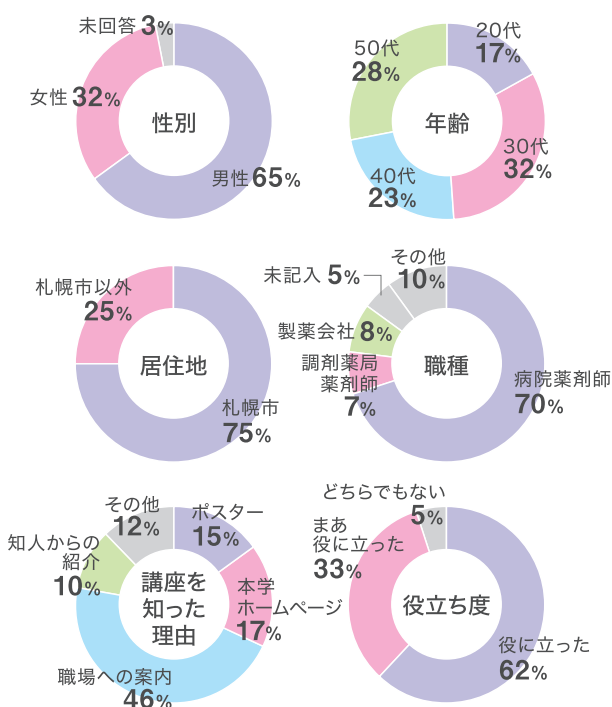
平成28年2月27日(土) 13:00から札幌全日空ホテル24階白楊の間において、文部科学省選定平成27年度がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン 地域がん医療薬剤師養成基礎講座「第5回がん薬物療法研究討論会」を開催しました。今年度も北海道医療大学薬剤師支援センター生涯学習の一環として開催し、第25回日本医療薬学会年会において発表されたがんに関する研究内容を紹介していただきました。主に、がん化学療法において有害事象の発現状況の調査やその予防効果の検討、緩和医療におけるがん性疼痛の薬物療法(麻薬の使用法)の検討など、各施設で取り組まれている対応、

対策について紹介があり、とても活発な質疑応答が行われました。

特別講演として、北海道医療大学副学長 浅香正博先生より「がんはどこまで防げるのか」と題してご講演をいただきました。臨床でご経験されたお話しを盛り込んでいただきながら様々ながんの予防方法やリスク回避方法など詳しく解説していただきとても参考になる内容でした。

がん治療における薬剤師の役割は、今後益々重要になると思います。今回の討論会も前回と同様に大変参考になる内容でした。今後もこのような企画を継続し、実施して行きたいと考えています。

参加者アンケート集計 受講者82名(回収数40/回収率49%)



[ ご意見 ]

- 各施設で行っているAEマネジメント対策を様々な施設に波及させていきたいと思いました。
- 自分の日々の業務に関連する内容が多く、興味深く拝聴できた。
- 現治療にて疑問に思っていたことが解決できた。
- 浅香先生の講義は特に詳しく具体的な話だったので役に立ちました。
- 病院薬剤師の院内取組(CDTMに向けてなど)がわかったことが勉強になりました。
- 研究に対するアプローチやモチベーションの向上、日々業務での介入ポイントの確認ができた。
- 保険、薬局薬剤師の活動などもっと活発になると思います。





平成27年度

# 4大学連携プログラム

事業報告

地域がん医療人コース（インテンシブ） 01

市民公開講座 02

## 01 地域がん医療人コース(インテンシブプログラム)

4大学連携インテンシブプログラム「地域がん医療コース」は、「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」の一環として、地域がん医療を担うことのできるチーム連携能力の高いがん専門医療人の育成などを目的として、4大学が地域の医療機関に出向き、連携して実施するものです。

本年度も昨年度と同様に4大学が分担し、地域の医療関係者を対象とする「地域合同カンサーボード・特別セミナー」として、多職種間でのがん治療方針の決定等のプロセスやチーム医療の重要性を認識するため、実際の症例を介した検討・意見交換を行う「地域合同カンサーボード」と、薬物療法・放射線療法・緩和療法などの専門的治療などに関してレクチャーを行う「特別セミナー」とを合わせて、道内3か所の医療機関で開催しました。

本学は北海道大学との共同による「地域合同カンサーボード・特別セミナー」を、平成27年12月1日(火)18時から苫小牧市の苫小牧市立病院を会場として開催し、90名の参加がありました。

まず、前半の「地域合同カンサーボード」では、北海道大学大学院医学研究科の白土教授を座長として、苫小牧市立病院の医師・看護師等をはじめ胆振地区の近隣医療機関の医療関係者のほか、北海道大学大学院医学研究科の秋田弘俊教授、北海道大学病院・がん化学療法認定看護師の船木典子看護師長、本学大学院

薬学研究科の小林道也教授も参加して症例検討が行われ、肺がんと腹膜悪性中皮腫の実際の2症例にもとづき、治療方針・方法の検討や意見交換を行い、臨床におけるがん医療の実践に関して認識を深めました。

引き続き行われた「特別セミナー『がんに関する最新治療について』」では、北海道大学大学院医学研究科の白土教授を座長に、北海道大学大学院医学研究科の秋田弘俊教授による「がん薬物療法の新しい動向」、北海道大学病院・がん化学療法認定看護師の船木典子看護師長による「歯科外来チームで行う口腔ケア」、本学大学院薬学研究科の小林道也教授による「医薬品リスク管理計画(RMP)に基づく医薬品適正使用」という3つの講演がありました。

本学大学院薬学研究科の小林道也教授の「医薬品リスク管理計画(RMP)に基づく医薬品適正使用」では、新しい医薬品リスク管理対策として策定された「医薬品リスク管理計画(RPM)」制度の概要等について説明があり、本制度を有効に活用していくうえでの医療現場での理解と協力の重要性、特に薬剤師と医師等の他の医療スタッフとの連携による医薬品情報の適正な活用に向けた取り組みの必要性などに言及しました。

いずれの講演もそれぞれの分野における高い専門性と臨床における実践に即した内容であり、活発な意見交換が行われるなど、参加者にとって新たな知識を獲得する有意義な研修となりました。



カンサーボード



特別セミナー：大学院薬学研究科 小林道也教授

## 02 市民公開講座

4大学合同による「市民公開講座」は、「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」事業の一環として、一般市民及び大学・医療関係者に対して、がんの最新情報や最先端のがん医療の現状などを紹介し、がん医療の現状や先端的な取り組みについて広く知っていただくことを目的に毎年開催しているものです。

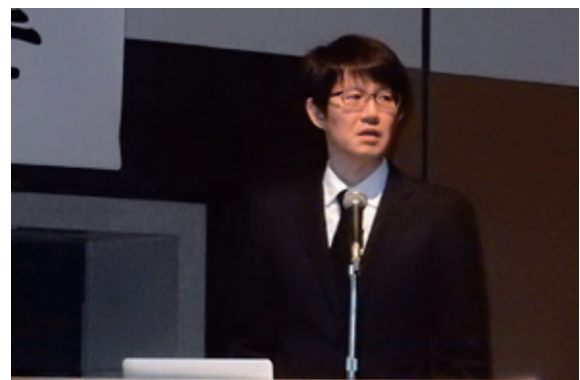
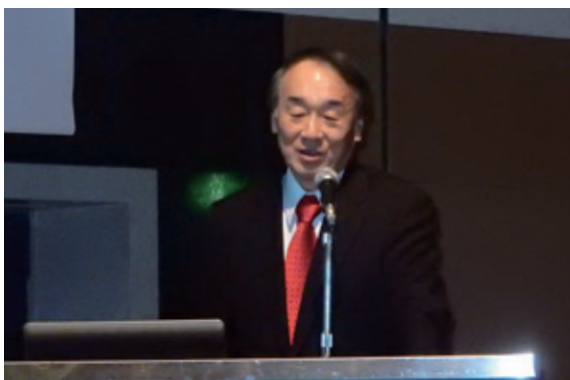
本年度は、平成28年2月13日(土)にホテルロイトン札幌において「がんの予防・がんの治療の今」をメインテーマとして開催し、188名の参加がありました。

講演会は、がんプロフェッショナル養成基盤推進ボード議長で札幌医科大学大学院医学研究科長の堀尾嘉幸教授の開会挨拶に続き、本学の浅香正博副学長(北海道大学名誉教授)の「ピロリ菌除菌による胃がん予防の展望」、次に本学大学院薬学研究科の平野剛教授による「乗り越えよう!抗がん剤治療の副作用」、旭川医科大学の笹島順平特任助教による「胆道がんとはどんながん?診断から最新治療まで」、札幌医科大学の坂田耕一教授による「もっと知ろう!放射線治療～食道がん編～」の4つの講演があり、それぞれの専門的立場から、最新の知見等にもとづき、がんの予防やがんの治療に関する興味深い内容の話がありました。

本学の浅香副学長の講演では、ピロリ菌感染による慢性胃炎(ピロリ感染胃炎)から胃がんへの発生機序とピロリ除菌による胃がんの予防効果の有効性について概説された後、ピロリ感染の精査とピロリ除菌により胃がんの発生を予防し、胃がんならびに胃がんによる死亡者を撲滅するための

プロジェクトについても言及されました。また、平野教授の講演では、通院による抗がん剤治療(外来化学療法)の現状や一般的な抗がん剤治療による副作用と発症時期などについて概説するとともに、抗がん剤治療において薬剤師が果たす役割等についても解説がありました。

参加者は一般市民が82%と多数を占め、アンケート(回収率83%)の結果は「わかりやすく大変参考になった」、「とても勉強になった」、「がんの予防はたいへん興味深かった」、「治療が日進月歩で進んでいることがよくわかった」、「今すぐピロリ菌検査に行こうと思った」などの感想があり、広く一般市民の方にがん医療の現状等への理解を深めていただくことができた有意義な講演会でした。





がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン  
～北海道がん医療を担う医療人養成プログラム～

平成27年度 北海道医療大学 担当者

大学院看護福祉学研究科長

平 典子 所属／看護福祉学研究科・教授

大学院薬学研究科長

和田 啓爾 所属／薬学研究科・教授

地域がん医療薬剤師コース（インテンシブコース）責任者

齊藤 浩司 所属／薬学研究科・教授

唯野 貢司 所属／薬学研究科・教授

がん看護コース責任者

平 典子 所属／看護福祉学研究科・教授

野川 道子 所属／看護福祉学研究科・教授

地域がん医療薬剤師コース（インテンシブコース）担当者

浜上 尚也 所属／薬学研究科・准教授

櫻田 渉 所属／薬学研究科・講師

木村 治 所属／薬学研究科・講師

がん看護コース担当者

櫻庭 奈美 所属／看護福祉学研究科・助教

事務局

笠原 晴生 所属／学務部 次長

古林 琢子 学務部看護福祉学課 課長

三川 清輝 学務部薬学課 課長

丹羽 麻理子 学務部看護福祉学課

天間 栞 学務部薬学課

平成27年度  
**がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン**  
事業報告書

---

平成28年3月31日発行

発行者 がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン 北海道医療大学  
〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢1757 TEL.0133-23-1211

印刷 山藤三陽印刷株式会社  
〒063-0051 北海道札幌市西区宮の沢1条4丁目16-1 TEL.011-661-7163

制作 株式会社かもめプランニング  
〒060-0062 北海道札幌市中央区南2条西2丁目丸友パーキングビル5F  
TEL.011-272-2030